

降り積もった雪の変化

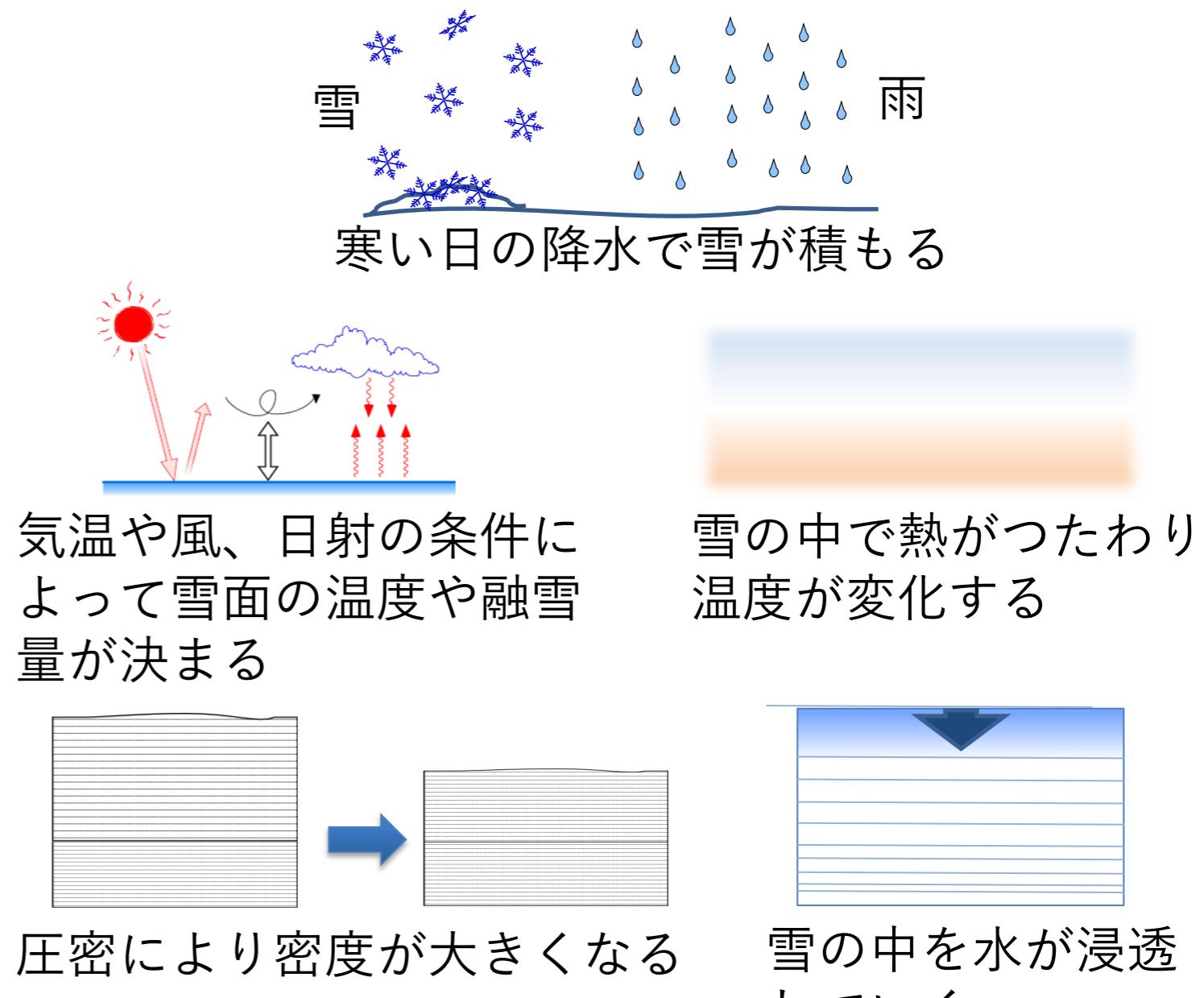
—層構造をつくる積雪—

- 雪が降った後、融けずに積もったものを積雪という
- 積雪は時間がたつと雪結晶の形が変わっていくとともに、重くなっていく
- 雪は積もった時期によって異なる雪質となり、地層のような層構造を作る

■ 積雪の中で起こる変化

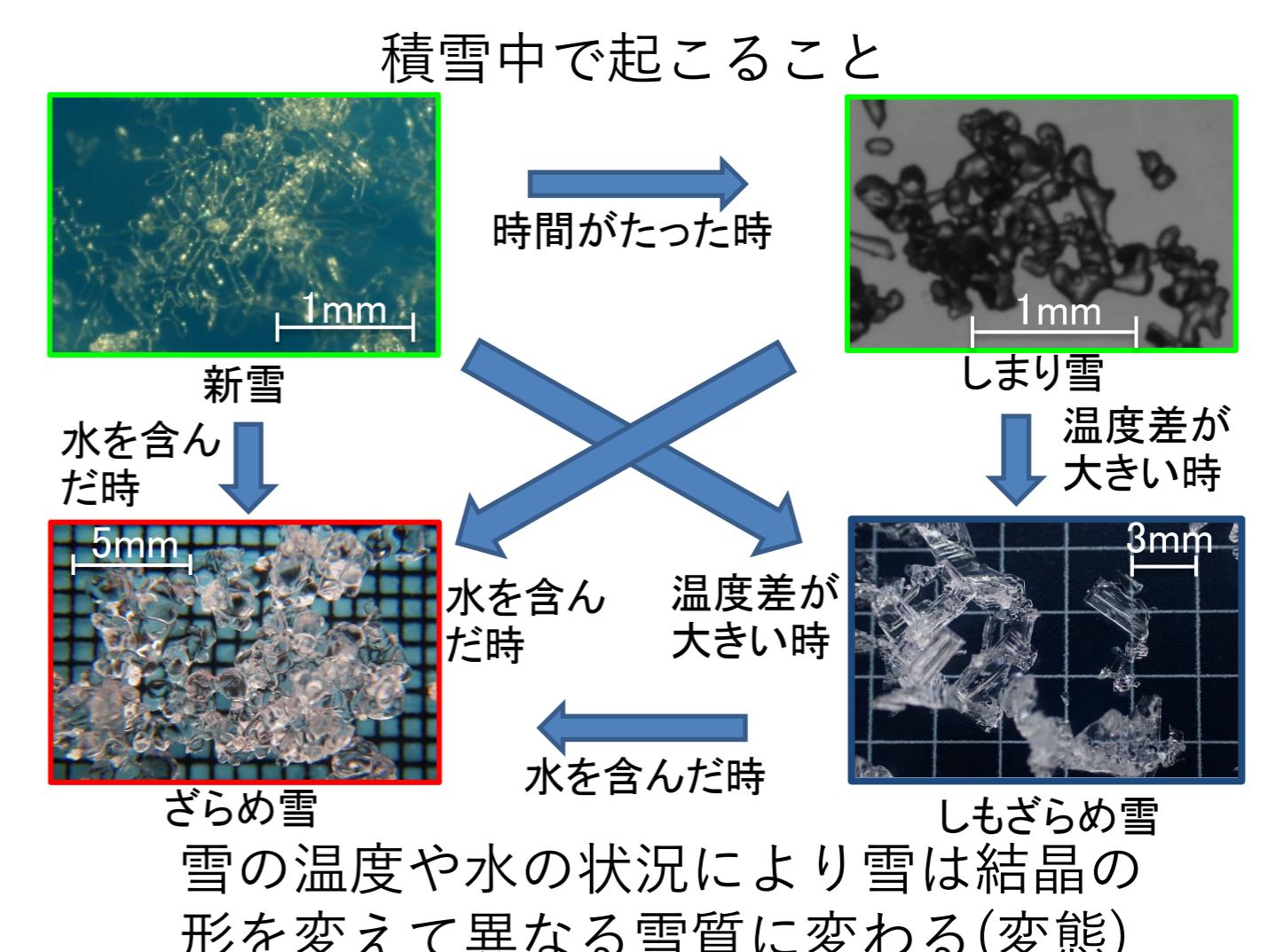
降った雪が積もった状態のものを積雪という。積雪中では以下のような変化が起きている。

- **融雪**—雪の温度が上昇して0°Cに達すると雪は融け始める。温かい日は雪の表面付近から融けて水は下方向へ浸透していく。
- **変態**—雪の結晶は六角形や針状のものが多いが、積雪の中ではだんだんと丸くなり、また雪の結晶同士が結合していく。さらに、水を含むと雪の結晶が大きくなっていく。
- **圧密**—積もったばかりの雪は軽く柔らかいが、時間がたつと縮んで重くなるとともに硬くなっていく。



■ さまざまな雪質

- 雪の結晶の形や性質によっていくつかの**雪質**として分類される。主な雪質として、積もったばかりの**新雪**、縮んで結晶が丸くなったり**じまり雪**、雨や雪だけ水を含んで粒が大きくなったり**ざらめ雪**、寒いところではコップ状の結晶になった**しもざらめ雪**などがある。温度や含まれる水などの条件によって異なる雪質に変化していく。



雪を掘った断面に色水をスプレーすると層の違いがよく見える。

